

Weekly-Report

C X 週間展望 (10月4日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

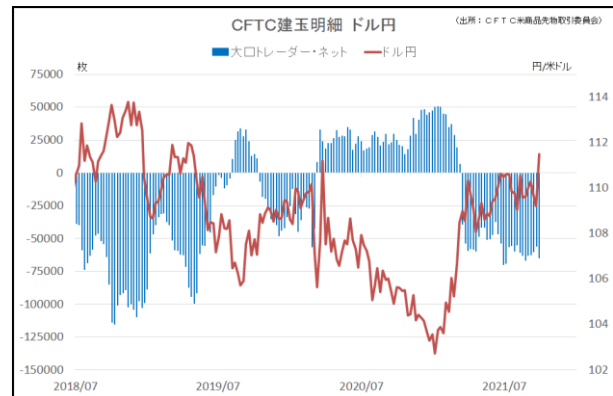
ドル・円(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「FOMC声明では、「資産購入ペース縮小が近く正当化される可能性」との見解が示され、FOMCメンバーによる政策金利見通し(ドットチャート)では、18人中9人が2022年中に利上げが必要になるとみている。前回(6月)は2023年予想となっていた利上げ開始が前倒しされた格好となった。

中国・恒大集団の債務問題が大きな波乱容認とならなければ、ドルの上値を試す流れ。心理的節目110円~7月高値が上値目標だが、米国の債務上限問題の目途がつかなければ、上値は抑えられ易い。

上院では、28兆4000億ドルの債務上限を凍結し、会計年度末の9月30日以降も連邦政府機関の運営を維持するための法案の採決を控え、与野党の攻防が続いている。まとめれば、一段のドル高、月内に目途が立たねば、ドル急反落も。26日投票のドイツ連邦議会選(総選挙)の結果如何では、ユーロに左右される可能性も」としたが、先週は、22日の米連邦公開市場委員会(FOMC)以降、米金融政策の正常化が早まるとの見方や米長期金利の上昇を受け、日米金利差拡大思惑からドル買いが進んだ。



FRBの「インフレは一時的」との観測とは相反し、インフレ加速で利上げ開始が早まるとの思惑も円売り・ドル買いを誘った。パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長が28日の上院銀行委員会での議会証言で、供給網(サプライチェーン)のボトルネックによる物価上昇圧力が「改善するどころか、悪化している」と指摘。さらにインフレが深刻な事態となった場合は、措置を講じるとした。

また、29日の欧州中央銀行(ECB)フォーラムでサプライチェーンの問題が改善しないどころか、悪化していることに対していら立ちを覚えると発言した。こうした状況は来年も続くとしており、インフレが想定以上に長期間に渡って高止まりする可能性がある」と述べた。

年初来高値である7月2日高値を上抜き、112円台に乗せたが、月末と四半期末とあって、9月30日には持ち高調整や利益確定の円買い・ドル売りが優勢となった。長大陰線を引いた調整安となった。米議会上院は30日、12月3日までの連邦政府の資金を手当てするつなぎ予算案を可決したが、債務上限問題で合意しなければ米国債が初の債務不履行に陥りかねない状況に変化はない事も調整の一因。

1
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report

C X 週間展望 (10月4日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

ドル・円(2)

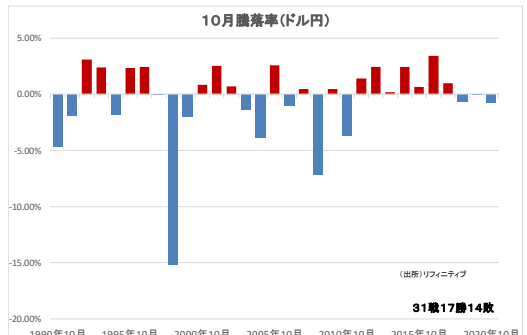
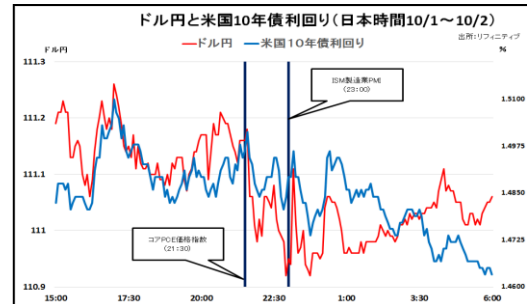
【週末のNY市場】

週末のドル円は、8月の米個人消費支出（PCE）物価指数は、エネルギー・食品を除くコア指数が前年同月比3.6%上昇と伸び率は前月と同じだった。米インフレ圧力が高まるとの見方は広がらず、債券市場で米長期金利が低下し、日米金利差拡大思惑が後退、円買い・ドル売りが優勢となった。

ただ、米連邦準備理事会（FRB）が今後、金融緩和を縮小するにつれ米長期金利が上昇

するとの見方は根強く、ドルを積極的に売る動きは限られた。ユーロはドルに対して6営業日ぶりに反発。持ち高調整目的のユーロ買いが優勢となった。

CFTC建玉明細（9/28現在）は、64,760枚の売り越し。前週（56,071枚の売り越し）から拡大。



【今週見通し・戦略】

米議会上院は9月30日、12月3日までの連邦政府の資金を手当てするつなぎ予算案を可決したが、債務上限問題で合意しなければ米国債が初の債務不履行に陥りかねない状況に変化はない。米議会民主党は1日、下院で1兆ドル（約110兆円）規模のインフラ投資法案の採決を再び見送った。子育て支援や気候変動対策に3.5兆ドルをあてる歳出・歳入法案とあわせて可決できるメドがまだ立たないため。中道派は3.5兆ドル法案の圧縮を求めており、規模の維持を求める左派議員と対立する。

10月の季節傾向は、円安ドル高が優勢（31戦17勝14敗）だが、ドル高よりもドル安に振れた時の方が、値幅（下落率）が大きくなっている点には注意。また、ドイツ政権の組合わせ如何では、ユーロ売り主導で、ドル円に影響を与える可能性も。本邦要因では、衆院選挙の結果と共に、岸田首相の主な経済政策の実効性にも注目。ドル円は、2017年以降、110円を中心としたレンジ相場が続いている。

Weekly-Report

C X 週間展望 (10月4日～)

日産証券

調査課 菊川 弘之

金標準先物(10/1 清算値:6,260円)(1)

【前週レビュー】

先週レポートで「量的緩和縮小(テーパリング)」が「近い」との見解に伴う米金利上昇を嫌気して下落したが、一目均衡表では、雲を維持している状態。

9月末～10月初旬には、変化が起こりやすいと言われる雲のねじれの時間が控える。恒大集団のデフォルト懸念を抱えた中国は、10月1日から国慶節の長期休が始まり、薄商いの中の値飛びも警戒される。

更に、米債務上限問題も波乱要因だ。米中間選挙を控えて、民主党、共和党は互いに債務膨張の責任を押しつけ合い、対応を講じるメドがたっていない。2011年の米国債格下げショックの際は、債務上限引き上げ法案が可決した後、S&Pによる史上初の米国債格下げとなり、株売り・金買いとなった。最終的には、ギリギリの段階での合意が市場コンセンサスだが、数日の空白期間が生じるリスクは残ったままだ。イエレン財務長官は、米国がデフォルト(債務不履行)に陥れば、金利の急上昇や株価急落といった金融市場の混乱をもたらし、「歴史的な金融危機を引き起こす可能性がある」と懸念を表明。ホワイトハウスは連邦政府機関に対し、閉鎖の可能性に備えるよう要請している」としたが、先週のNY金(12月限)は、米連邦準備理事会(FRB)の量的緩和の縮小(テーパリング)見通しなどを背景に米国債の利回りが上昇したことやドル高に振れたことを受けて、1721.1ドル(9/29安値)まで下値を切り下げた。

ただ、

イエレン財務長官が米連邦政府の債務上限を引き上げなければ取り返しのつかない害が及ぶと改めて警告する中、つなぎ予算が成立し、米連邦政府機関の一部閉鎖は回避される見通しとなったが、債務上限の引き上げや再度の適用停止は暫定予算に盛り込まれず、米長期金利は低下、ドル売り・金買いが週末にかけて急速に進んだ。



Weekly-Report

C X 週間展望 (10月4日~)

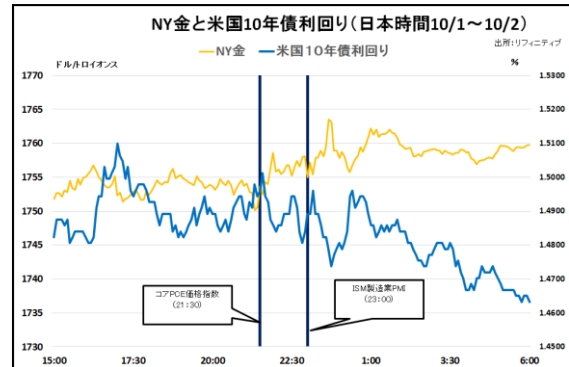
日産証券

調査課 菊川 弘之

金標準先物(10/1 清算値:6,260円)(2)

【週末のNY市場】

週末のNY金(12月限)は、小幅続伸した。米株価が債務上限引き上げ問題に対する懸念を受けて時間外取引で急落した事や、米個人消費支出の7月分が下方修正され、米国債の利回りが低下したことを受けて堅調となった。時間外取引の高値を突破し、1765.2ドルまで上昇した。



米個人消費支出で7月分が0.3%増から0.1%減に下方修正され、景気減速の見方から米国債の利回りが低下したことが支援要因になった。

一方、米株価は、つなぎ予算成立で政府機関の一部閉鎖が回避される見通しとなったことや、メルクが治療薬期待で大幅高となった事から日中取引で上昇に転じた。

CFTC建玉明細(9/28現在)は、168,999枚の買い越し。前週(187,647枚の買い越し)から縮小。

【今週見通し・戦略】

今週の注目は、9月の米雇用統計。事前予想は、非農業部門雇用者数が50万人増(前月23万5000人増)、失業率は5.1%(同5.2%)。インフレ懸念が高まる中、米国債の利回り上昇が継続するの否かに注目。

金利上昇・ドル高で上値が抑えられている金相場だが、いわゆるバーナンキショックからテーパリング開始した2013-2014年の値動きを振り返ると、テーパリング開始までは米金利上昇・NY金売りが続いたが、テーパリング開始以降は、「知ったら終い」で、米金利下落・金反騰となった。FRBは「インフレは一時的」とのスタンスを変えていないが、世界的にエネルギー価格が上昇しており、インフレが本格化してくると、金利上昇・株価下落・金上昇の構図となるかもしれない。インフレ動向には注意。

上値抑制要因は、金と相関の高いユーロ安の動き。メルケル以降のドイツ政情不安定化が嫌気されている。

中国恒大集団は、傘下企業が9月30日までに期日を迎える理財商品について29日に10%支払いを実施したと発表。ただドル建て社債の利払いは23日に続き、29日も実施できなかった。30日間の猶予期間があるが、今後も利払い期日を控えている。中国は1~7日が国慶節の休場だが、深刻な電力不足が生じている。

4
-当資料は情報提供を目的としており、当社取り扱い商品に係わる売買を勧誘するものではありません。内容は正確性、完全性に万全を期してはありますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の一切の権利は日産証券株式会社に帰属しており、無断での複製、転送、転載を禁じます。

Weekly-Report



C X 週間展望 (10月4日~)

調査課 菊川 弘之

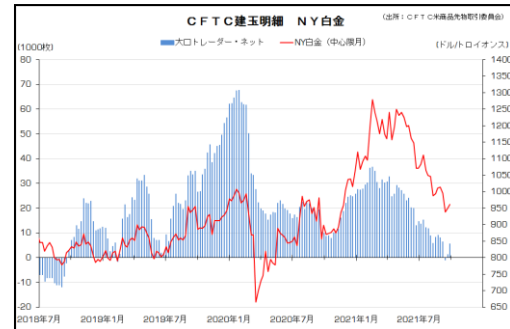
白金先物(10/1 清算値:3,417円)

【前週レビュー】

先週レポートで「ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル(WPIC)」によると、6月上旬には0.1%前後だった白金の1ヶ月物のリースレートは、7月には2.6%まで急上昇し、9月上旬時点でも1.3%前後と高止まりしている。

急騰した背景は投資需要と中国の爆買い。今年の輸入量は過去最高ペース、スポットで購入できる白金が不足している中、リースに頼る動きが強まっている。

NYは、2月高値を起点とした下降チャネル継続も。9月高値(1026.5ドル)を上抜くと、底打ち感が増す。同水準の攻防が焦点」としたが、先週のNY白金(10月限)は、米連邦準備理事会(FRB)の量的緩和の縮小(テーパリング)見通しなどを背景にドル高が進んだことを受けて軟調となった。



週末のNY白金(10月限)は、続伸。株高に転じたことや、米国債の利回りが低下し、ドル安に振れたことで堅調となった。時間外取引の高値を突破し、978.0ドルまで上昇。米個人消費支出で7月分が0.3%増から0.1%減に下方修正され、景気減速の見方から米国債の利回りが低下し、ドル安に振れた。米株価は債務上限引き上げ問題に対する懸念を受けて時間外取引で急落したが、つなぎ予算成立で政府機関の一部閉鎖が回避される見通しとなったことから日中取引で上昇に転じた。

CFTC建玉明細(9/28 現在)は、5,653枚の買い越し。前週(1,218枚の買い越し)から拡大。

【今週見通し・戦略】

米ゼネラル・モーターズ(GM)とフォード・モーターは半導体不足が解消しないため、製造を追加的に削減すると発表。一方、中国恒大集団のデフォルト(債務不履行)懸念に加え、深刻な電力不足が発生している。ただ電力不足については、李克強首相が30日、エネルギーと電力の供給を確保し、経済活動を合理的な範囲内で維持すると述べた。

2008年のリーマンショック以降では、NY白金の800ドル以下は中長期的な底値圏となっているものの、金との割安感で買われても、戻りは鈍い状況が続きそうだ。

Weekly-Report

日産証券

C X 週間展望 (10月4日~)

調査課 菊川 弘之

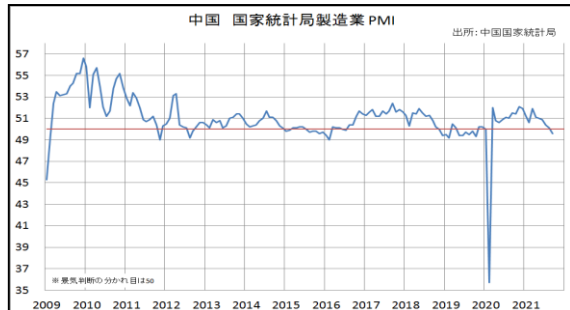
ゴムRSS3(10/1:清算値:207.1円:22/02月限)

【先週レビュー】

先週レポートで「中国不動産開発大手の中国恒大集団が人民元建て債券の利払いは実施されとの発表から、市場は落ち着きを見せている。ドル建て債券の利払いについては不明だが、まず国内の不安を沈めることを優先させる模様。~中略)。

債務利払いは30日間の猶予期間があり、当面は様子見ムードが高まりそう。東京市場では、J-GATE 3.0の稼働に伴う流動性の行方を見極めたいとする動きも出てきそう。季節的には、当先の順鞆が同鞆に変化しながら、徐々に底練りの時間帯へ向かう。鞆の変化にも注目したい」としたが、先週のRSS3号は、上海指定倉庫在庫が低水準であることや、タイ北部で洪水が発生した事などから国慶節長期休暇を控えた上海ゴムのショートカバーが強まり、JPXゴムも連れ高となった。

ただ、連続12限月制となった中で、流動性の行方を見極めたいとする動きも出たことや、週末にかけて内外共に株価が調整の動きを見せた事で、先限つなぎ足は225.6円(9/28高値)、2月限は209.3円(9/30高値)を起点に調整含みとなっている。



【全国生ゴム営業倉庫在庫】

全国生ゴム営業倉庫在庫は、9月10日現在11,564トン(前旬比538トン増)。

【今週見通し・戦略】

9月の中国製造業景況感指数(PMI)は49.6となり、景況感の境目とされる50を下回った。電力不足も深刻になっており、積極的に買い進むような状況ではない。価格形成の主導役である上海ゴム市場が10月1日から長い国慶節の休場となることに加え、恒大集団の債務利払いは30日間の猶予期間があり、当面は様子見ムードが高まりそう。10月の月間騰落傾向は、イーブンの時間帯(31戦15勝16敗)。10月~11月は例年、底固めの時間帯で、当先の順鞆が同鞆~逆鞆に変化するタイミングを注視したい。

Weekly-Report



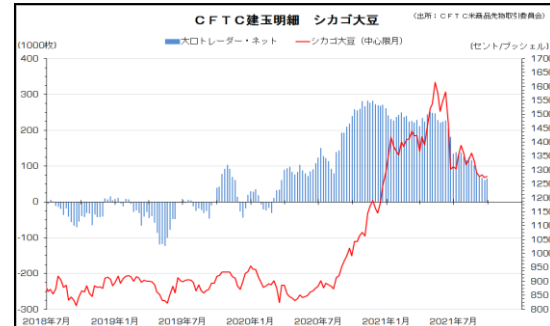
C X 週間展望 (10月4日~)

調査課 菊川 弘之

一般大豆先物(10/1:清算値:64,000 円)

【先週レビュー】

先週レポートで「13ドル台を回復できるか否かが焦点。回復できれば底固め。回復できないようだと、ハーベストロー（収穫期の安値）試しへ」としたが、先週のシカゴ大豆（11月限）は、下値を試す展開となった。米農務省(USDA)の四半期在庫報告では、9月1日時点の全米在庫が、事前予想（1億7200万Bu）を大幅に上回る2億5618万Buとなった。



週末のシカゴ大豆（11月限）は続落。コーンが小麦の急騰に支援されたのに対して、大豆は弱気な四半期在庫を受けた流れが継続。中国が国慶節休場で大口輸出成約が期待できない中、ミシシッピ川などのコーンのバージ運航が前週比131%の急増となったのに対して、大豆は前週比25%減となったことも弱材料視された。

CFTC建玉明細(9/28 現在)は、64,720枚の買い越し。前週(61,054枚の買い越し)から拡大。

【週間純輸出制約高(9月23日までの一週間)】

大豆：110万1700トン(事前予想レンジ：70万～120万トン)

【週間作物進捗報告(9月26日までの週)】

落葉率：75%(前週58%、前年72%、平年66%)

収穫率：16%(前週6%、前年18%、平年13%)

「良」以上：58%(前週58% 前年64%)

「劣」以下：14%(前週14% 前年10%)

【今週の見通し・戦略】

四半期在庫で生産量見通しが、9月農務省需給報告(41億3500万Bu)を上回る42億1630万Buとされ、10月の需給報告で期末在庫量及び期末在庫率が引き上げられる可能性も出てきた。今回発表された生産量と9月需給報告における米需要を基に算出すると、期末在庫率は9月需給報告の3.9%に対し5.7%が見込まれる。ハーベストロー（収穫期の安値）を試す流れが継続見通し。12ドルが下値支持。

Weekly-Report



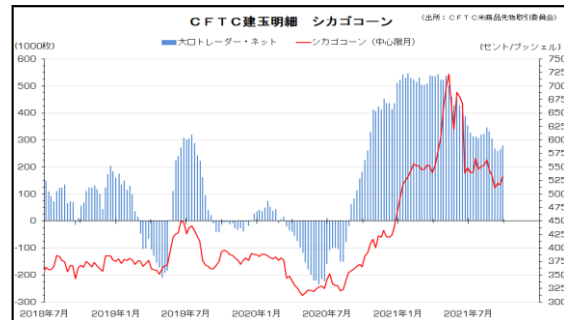
C X 週間展望 (10月4日~)

調査課 菊川 弘之

とうもろこし先物(10/1:清算値:35,180円)

【先週レビュー】

先週レポートで「9月10日安値の1番底に対して、9月16日高値がネックライン。現在は2番底形成中。底打ち確認は、ネックライン～心理的節目550¢を越えるまではできない。ハーベストロー(収穫期の安値)形成」としたが、先週のシカゴは、上昇。ハーベストプレッシャー(収穫期の売り圧力)が強いものの、原油高や、ハリケーン襲来で稼働が停止していたメキシコ湾岸の輸出施設の稼働再開を受けて輸出増加期待が強材料となった。全米四半期在庫が12億3648万Buとなり、事前予想平均の11億6700万Buを上回ったが、小麦在庫が事前予想を下回ったことや、20/21年度のコーン生産量が9月USDA需給報告(141億8000万Bu)を下回ったことで、大豆と比べて、コーンの方が底堅い印象。



週末のシカゴコーン(12月限)は、上伸。小麦が大幅高となったことに連れ高となった。またハリケーン被害で停止していた米ガルフの輸出積み出し施設の稼働再開で、ミシシッピ川などのバージ運航が前週比131%増となっていたことで、輸出拡大観測にも支援された。

CFTC建玉明細(9/28 現在)は、278,546枚の買い越し。前週(265,501枚の買い越し)から拡大。

【週間純輸出制約高(9月23日までの一週間)】

コーン：37万0400トン(事前予想レンジ：40～110万トン)

【週間作物進捗報告(9月26日までの週)】

収穫率：18%(前週10% 前年14% 平年15%)

「良」以上：59%(前週59% 前年61%)

「劣」以下：15%(前週15% 前年14%)

【今週の見通し・戦略】

ハーベストプレッシャー(収穫期の下げ圧力)が意識されやすいが、歴史的な低在庫水準で需給ひっ迫が解消されることは容易ではなく、世界的なエネルギー危機が懸念される中、ハーベストロー(収穫期の安値)は限定的となるかもしれない。

Weekly-Report

C X 週間展望 (10月4日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(1)

【先週レビュー】

先週レポートで「米エネルギー情報局 (EIA) 週間石油在庫統計で原油在庫が市場予想以上に減少した。ハリケーン「アイダ」によって石油生産施設が被害を受けた後、復旧が遅れていることが背景。熱帯性暴風雨「ニコラス」も復旧作業を停滞させたことから、今週発表分のEIA週報でも影響が残る見通したが、米ガルフ(メキシコ湾)の海上油田の原油生産停止は、今週中には大半を回復するとの見方が強まっており、在庫減少に対する反応は限定的となる可能性。

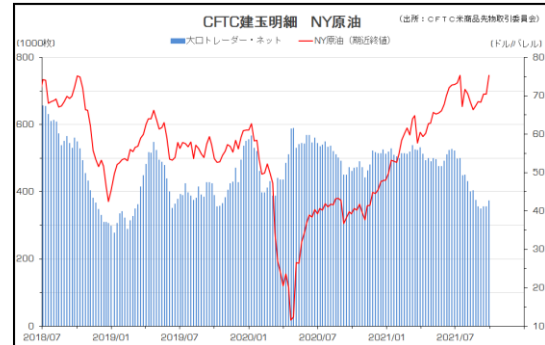
米中の戦略備蓄放出もあり、新たなハリケーン発生・被害や、具体的な供給障害を伴う中東の地政学リスクが起きなければ、上値は限定的か？

バイデン米大統領は16日、「ガソリン価格が下落すべき証拠が多くあるにもかかわらず、下落していない」とし、その理由について政権内のチームが調査している。米連邦取引委員会(FTC)のリナ・カーン委員長は、ガソリンの値上がりに関して業界の慣行を徹底調査するとともに、「違法な」合併を厳しく取り締まる意向を示している。政治的な圧力に加え、9月は高止まりしても、10月の月間騰落率は弱気優勢の時間(31年間10勝21敗)≫としたが、先週のNY原油(11月限)は、ブレント原油期近が80ドルを達成したこともあり、一代新高値となる76.67ドルを付けた。

天然ガスの急騰による原油への代替需要シフトの可能性(今後冬季に向けて天然ガスはさらに世界的な供給難となることが危惧されている)に加え、中国が電力供給難に陥っていることで、李克強首相がエネルギーと電力供給を確保すると述べて、同国の今後の原油輸入増大の観測で強まっていることが材料となりそうだ。

一方、石油輸出国機構(OPEC)プラスの会合が10月4日に実施されるが、さらに増産で合意する見込みであることは圧迫要因。

ただ、一部の石油輸出国機構(OPEC)加盟国は、設備投資の縮小に伴い増産が難しくなっている。



Weekly-Report

C X 週間展望 (10月4日~)

日産証券

調査課 菊川 弘之

東京原油(2)

【週末のNY市場】

NY原油(11月限)は、続伸した。石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟国から成る「OPEC プラス」は、4日に開く会合で現在の生産調整を見直す。年内は毎月日量40万バレルずつ増産し、新型コロナ禍で設定した協調減産枠を縮小する計画。

「OPEC プラス」主要産油国による増産観測から売りが先行したが、「OPEC プラス」の今の増産ペースは世界の原油需要の伸びに追い付いておらず、今後半年は平均日量150万バレルの供給不足が続くとの見方は多く、売りは続かなかった。

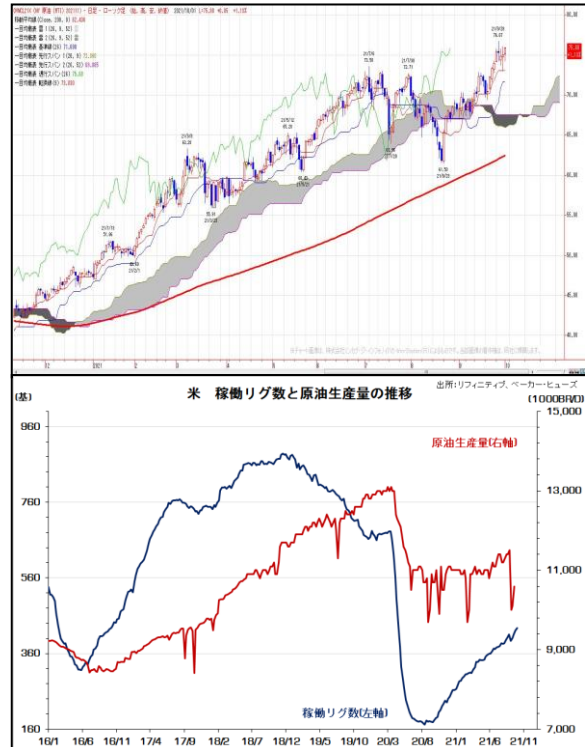
中国では石炭供給の減少で電力不足が深刻化しており、発電用エネルギーの代替として原油の利用が増える可能性。一部のアジアや中東諸国では、価格上昇が続くLNGから安価な原油による発電に切り替える動きもみられる。天然ガスの世界的な供給懸念や中国の電力問題などから、今後冬季に向けて原油への需要シフト見込みが強まっていることに支援された。

米バンク・オブ・アメリカはこの日のレポートで、原油価格が今冬、2014年以来の100ドルに達する可能性があり、世界的な経済危機を招く可能性がある」と指摘した。

CFTC建玉明細(9/28現在)は、373,814枚の買い越し。前週(355,978枚の買い越し)から拡大。

【石油掘削リグ稼働数(米石油サービス会社ベーカー・ヒューズ)】

米石油サービス会社ベーカー・ヒューズが1日公表した統計によると、同日までの1週間の国内石油掘削リグ稼働数は、前週比7基増の428基となり、2020年4月以来の高水準となった。天然ガス掘削リグの稼働数は、前週と変わらず99基。



Weekly-Report



C X 週間展望 (10月4日～)

調査課 菊川 弘之

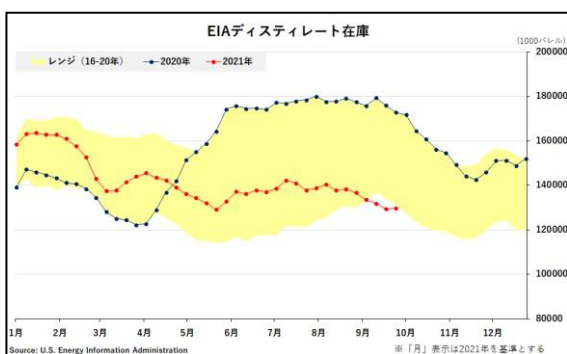
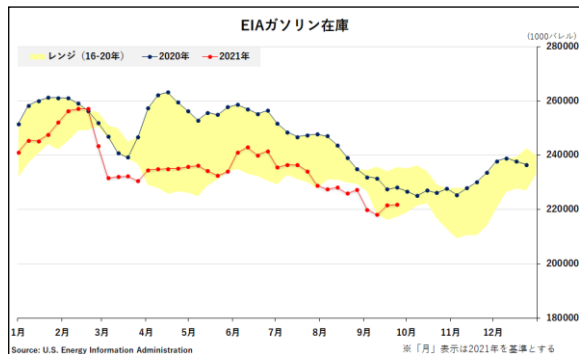
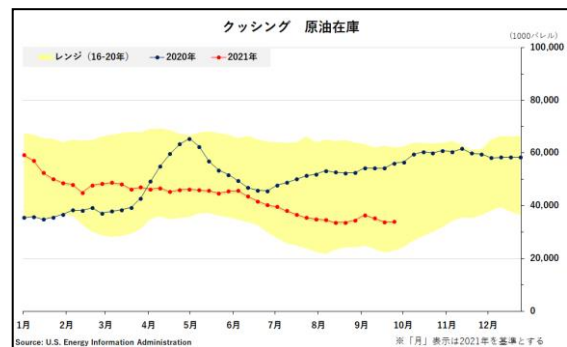
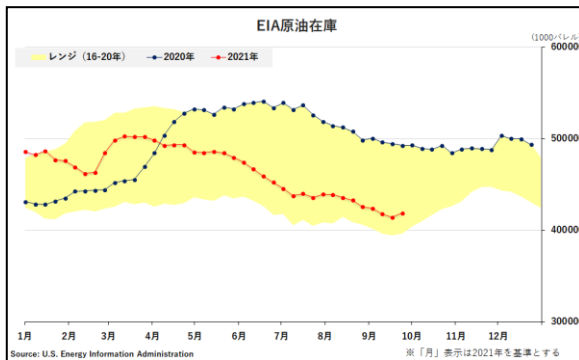
東京原油(3)

【EIA米週間在庫(エネルギー情報局)】

前週比

原油 4億1854万バレル
 クッシング 3397万バレル
 ガソリン 2億2181万バレル
 留出油 1億2973万バレル

457万8000バレル増加
 13万1000バレル増加
 19万3000バレル増加
 38万4000バレル増加



【石油連盟週報】

石油連盟週報(19日～25日)によると、ガソリンの週末在庫は、前週比0.1%増の169万2056キロリットル。灯油在庫は4.6%増の248万5729キロリットル。週間原油処理量は2.0%減の279万6002キロリットル。推定出荷量は、ガソリンが8.6%増の81万0497キロリットル。

灯油が95.7%増の10万2531キロリットル。

Weekly-Report



C X 週間展望 (10月4日~)

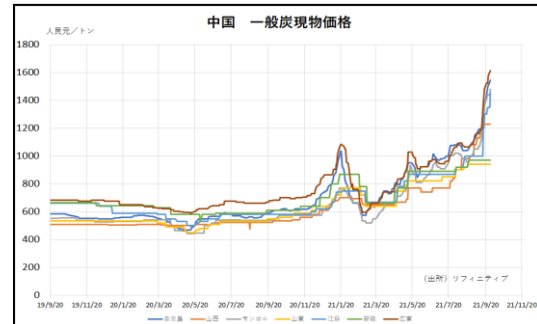
調査課 菊川 弘之

東京原油(4)

【原油相場見通し】

中国恒大集団は29日、子会社の保有する盛京銀行の株式を約100億元(約1700億円)で売却すると発表。資金繰り難は、ひとまず軽減される見込みだが、中国で懸念されているのは、「深刻な電気供給不足」。中国各地で工場の一時停止を引き起こしている電力不足は、中国恒大集団の債務問題よりも、経済にはるかに大きな脅威となる可能性も。一部、外資系ではGDP予測の下方修正に動いているところも出てきた。

豪州との関係悪化により豪州からの石炭の輸入が停止しているうえ、今年から実施されている脱炭素強化に伴う石炭供給制限と相まって、同国の石炭価格は前年比30%以上上昇しており、火力発電所の収益性が悪化し十分な電力の供給ができない状況となっている。中国の主要発電所6カ所の発電用石炭在庫は1131万トンと、わずか2週間分しか残っていない。また来年2月にかけて発電用の石炭は2億2200~3億4400万トン不足する見込み。石炭は中国の発電資源の約3分の2を占める。



中国だけでなく、世界的にもエネルギー需給がタイトになっている。石炭、ガス価格も過去最高値を更新。FRBは「インフレは一時的」と言うスタンスを変えていないが、厳冬となれば、世界規模のエネルギー危機が冬場にかけて起きる可能性も。ドイツの連立政権の組み合わせ次第では、ロシアとのパイプライン「ノルドストリーム2」の稼働が遅れる可能性もある。

コロナショック後の需要回復が続いている反面、供給の伸びが限定的で需要超過が続くと見られている。一部の石油輸出国機構(OPEC)加盟国は設備投資の縮小に伴い増産が難しくなっている。「OPECプラス」は7月、生産量を毎月40万バレルずつ増やし、580万バレル規模の協調減産を段階的に撤廃することで合意。12月にその方針を評価することで一致していたが、4日のオンライン閣僚会合で、生産量をさらに拡大するか否かが焦点。

原油に調整が入るとすれば、相関の高いNY株式市場が、インフレ・利上げ観測や中国の電力問題などを嫌気して大きめの調整を入れた場合か、追加の戦略備蓄放出が発表された場合か?短期的な買われ過ぎ感に対する調整が入っても、200日移動平均線を割り込むようなトレンド転換につながる下げは、現段階では期待し難い。

Weekly-Report



C X 週間展望 (10月4日～)

調査課 菊川 弘之

【週間行事予定 (10/4～10/10)】

日付	時刻	国名	対象	経済指標・行事予定	前回
10月4日(月)	17:30	ユーロ圏	10月	ユーロ圏投資家センチメント指数	
	23:00	米国	8月	製造業新規受注(前月比)	
		中国		休場(国慶節 ～7日)	
10月5日(火)	8:30	日本	9月	東京都都区部消費者物価指数(CPI)(前年比)	0.0%
	8:30	日本	9月	東京都都区部消費者物価指数(CPI)総合(前年比)	-0.4%
	16:55	ドイツ	9月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI)	56.0
	16:55	ドイツ	9月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI)改定値	55.3
	17:00	ユーロ圏	9月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI)改定値	56.3
	17:00	ユーロ圏	9月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI)改定値	56.1
	17:30	英国	9月	マークイット/CIPS サービス部門購買担当者景気指数(PMI)改定値	
	17:30	英国	9月	準備資産総額	
	18:00	ユーロ圏	8月	生産者物価指数(PPI)(前年比)	12.1%
	21:30	米国	8月	貿易収支(USD)	
	22:45	米国	9月	マークイット 総合購買担当者景気指数(PMI)改定値	
	22:45	米国	9月	マークイット サービス部門購買担当者景気指数(PMI)改定値	
	23:00	米国	9月	ISM 非製造業総合指数	
	23:00	米国	9月	ISM 製造業総合指数	
10月6日(水)	15:00	ドイツ	8月	鉱工業受注(前月比)	3.4%
	17:30	英国	9月	マークイット / CIPS 建設業購買担当者景気指数(PMI)	
	18:00	ユーロ圏	8月	小売売上高(前年比)	3.1%
	21:15	米国	9月	ADP 民間部門雇用者数	
	---	---	---	ECB理事会	
10月7日(木)	15:00	英国	9月	ハリファックス住宅価格(前月比)	
	15:00	ドイツ	8月	鉱工業生産(前月比)	1.0%
	21:30	米国	月27日, 週	新規失業保険申請件数	
	21:30	米国	月20日, 週	継続失業保険受給総数	
	21:30	米国	9月	米雇用統計	
10月8日(金)	4:00	米国	8月	消費者信用残高	
	8:30	日本	8月	全世帯消費支出(前年比)	0.7%
	8:50	日本	8月	経常収支	1,910.8(十億)
	10:45	大陸部	9月	財新 サービス業購買担当者景気指数(PMI)	
	15:00	ドイツ	8月	輸出(前月比)季調値	0.5%
	15:00	ドイツ	8月	輸入(前月比)季調値	-3.8%
	15:00	ドイツ	8月	貿易収支(EUR)季調値	17.9(十億)
	21:30	米国	9月	非農業部門雇用者数	
	21:30	米国	9月	民間部門雇用者数	
	21:30	米国	9月	失業率	
	21:30	米国	9月	平均賃金(前月比)	
	21:30	米国	9月	平均賃金(前年比)	
	21:30	米国	9月	平均週労働時間	
	23:00	米国	8月	卸売在庫(前月比)	
	4:30	米国	前週分	CFTC連玉明細	
10月9日(土)					
10月10日(日)					

(※) 発表日時は日本時間

発表日時は作成段階のものであり、予告なしに変更される場合があります。

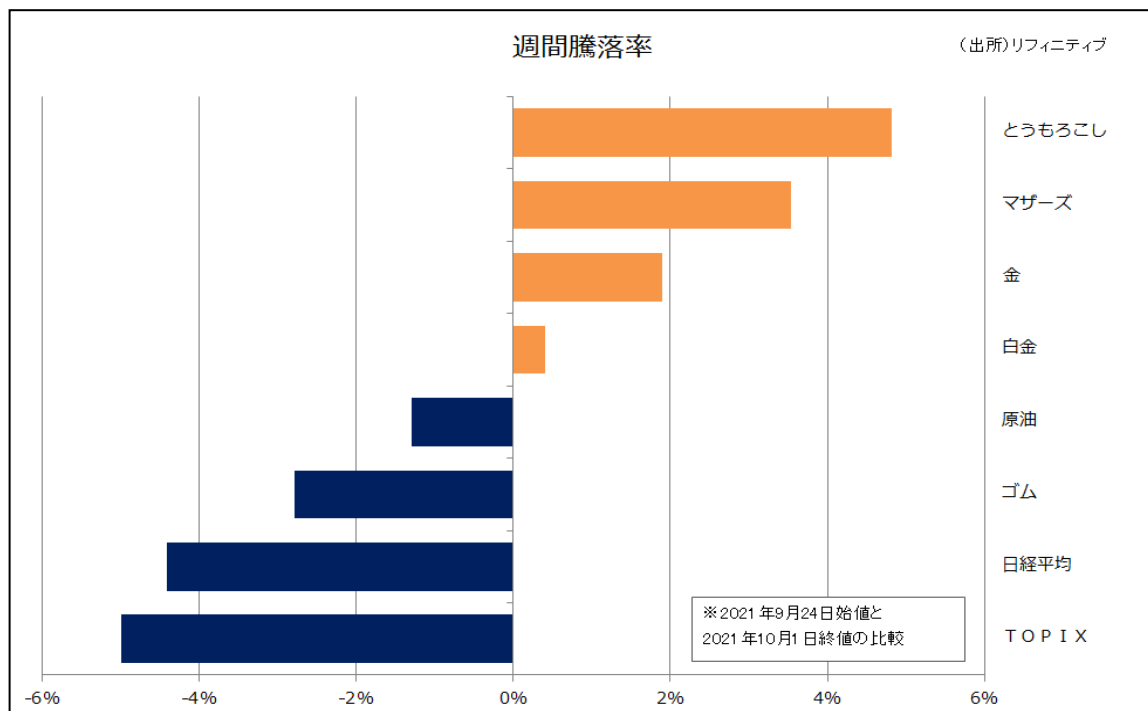
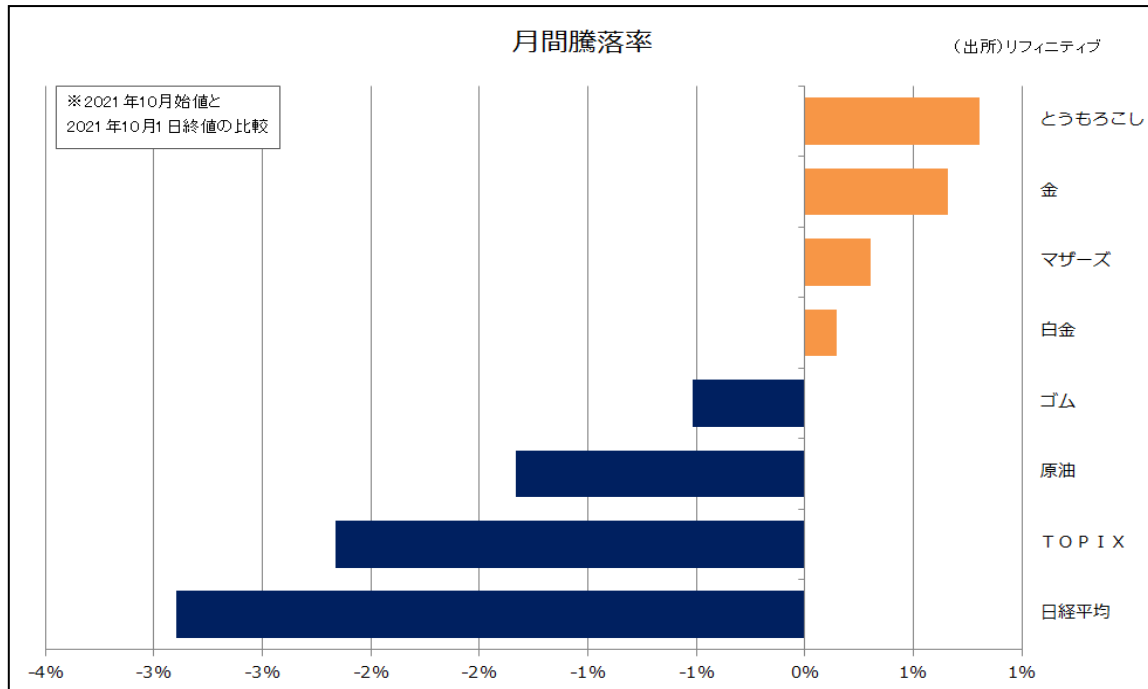
Weekly-Report

C X 週間展望 (10月4日~)



調査課 菊川 弘之

【騰落率 (月間・週間)】



【留意事項】

弊社が取り扱っている金融商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等により損失を生じる恐れがあります。商品や取引によっては、投資元本を超える損失が発生することがあります。各商品等ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、各商品等へのご投資にかかる手数料等及びリスクについては、当該金融商品等の取引概要やリスク説明等、契約締結前交付書面、目論見書、お客様向け資料等を十分にご確認ください。

<商号等> 日産証券株式会社（〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-38-11）

関東財務局長（金商）第 131 号 金融商品取引業者 商品先物取引業者

<加入協会> 日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会

当資料は情報提供を目的としており、弊社取扱商品に係る売買を勧誘するものではありません。内容は、正確性、完全性に万全を期してはおりますが、これを保証するものではありません。また、当資料により生じた、いかなる損失・損害についても当社は責任を負いません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い致します。